

2012.05.26・27 雁坂峠・笠取山山行報告書

担当：M3 岡本

①参加者(敬称略) M3 岡本 M2 荒川 C2 堀江 (3名)

②行程



5/26(Sat) 川又 09:40～登山口 10:00～岩道場 11:15～11:50 突出峠 12:05～12:30 樺避難小屋 13:00～13:35 地蔵岩展望台 14:30～15:30 雁坂小屋 16:30～16:45 雁坂峠 16:55～17:10 雁坂小屋

5/27(Sun) 雁坂小屋 05:30～05:45 雁坂峠 05:55～水晶山 06:20～06:45 古礼山 06:55～07:55 雁峠 08:05～08:35 笠取山(展望地) 08:45～08:50 笠取山山頂～09:10 水干～09:40 雁峠 09:50～11:20 新地平

③山行報告

1 日目

西武秩父駅から 1 時間ほどバスに揺られ川又にて下車。天気恵まれ、やや汗ばむ陽気も日陰に入ると丁度よく感じられた。登山口に至るまでの国道で、たまたま下山していた雁坂小屋の管理人より比較的楽な黒岩尾根経由のルートをお勧められるも、時間的に余裕があったため結局予定していた樺避難小屋経由のルートを取ることにした。



山道に入り、やや角度のある道を登っていく。人の通りがまばらなのか所々道が判別しづらい箇所があったが、荒川君の巧みな先導により順調なペースを保つことができた。当初水の本で休憩の予定だったが気づかず通り過ぎてしまい、11 時頃、岩道場のやや手前で道すがら水分補給を行った。

岩道場の前後あたりから更に傾斜が増した。地図上でも等高線と垂直な山道であり、登りのペースはかなり落ちた。二日間の山行のうちここが最もスタミナを削られた急登地であったように思う。段々と周りの景色を楽しむ余裕が無くなり、挫けそうになりつつも 40~50 分で何とか突出峠に到達。”とっしゅつとうげ”到着と口に出して喜ぶも”つんだしとうげ”ですとたしなめられ、頬に一抹の熱を感じつつ一息つくに至った。写真の通りこの辺りは我々が大学農学部で演習林であるらしく、林学を志す者も相当な体力が必要なのだなと感心した。

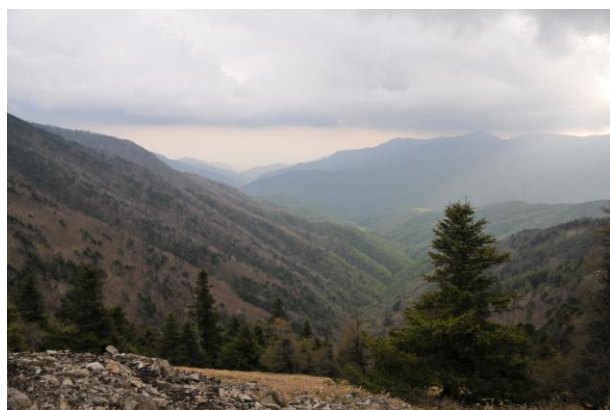


突出峠を越えたらもう行程の半分は終わったようなものだ、との件の管理人の言葉通り、以後は緩やかな道が続いた。正午過ぎに突出峠を出発し、いくつかの新しい倒木を乗り越えつつ 30 分をかけて樺避難小屋へ。この過程で川又から 1000m 登ったことに



なる。水にはまだまだ余裕があったため、水場には寄らずこのまま雁坂小屋を目指すことにした。

だるま坂を登った直後に道標があり、少々解りにくかったがそこから道を外れて斜面を登って行った先が地蔵岩展望台であった。岩場にはしゃぐ後輩を尻目にこの日初めての開放感あふれる眺望を堪能した。地蔵岩付近のみ植生が異なっていたのもまた興味深かった。これより先にほとんど登りは無く、小屋に水を引くホースを指針に巻き道を進み 15 時半に雁坂小屋に至った。人好きのする小屋主が迎えてくれた。標高は 1950m、出発地からの高低差は約 1300m の登路であった。



テントを張り終えた後、夕食前に雁坂峠まで足を伸ばし景色を見ることにした。片道 15 分程度であるがそこそこに急斜であったため、乳酸の溜まった両脚にはやや堪える道程であった。遠方の山並みに感動しつつ、野生の鹿に和み、水晶山の稜線を見つめ明日の山行に思いを馳せた。夕食として今回はレトルト食品を摂ったが、小屋の水が

澄んでいて非常に美味であったため、次回のテント泊では鍋を持ち寄ろうと画策した。夕食後は日が暗くなるのに合わせて早めに就寝した。

2日目

4 時に起床し、テント側で日の出を観察した。朝方の高地は非常に冷え、シュラフの外に出るには重ね着が必要だった。朝食後早々にテントを片付け、5 時半に雁坂小屋を出発した。あいにく朝は霧が出ていたため、雁坂峠からは 1 日目のような眺めは見られなかった。昨日のうちに峠まで来ておいて正解だった。(左から岡本、荒川、堀江)





峠からは水晶山、古礼山へと尾根伝いに歩を進めた。古礼山山頂手前の短い激しい急傾斜を除いて、多少の上り下りはあるものの基本的に平坦な道のりが続いた。しかしやや道幅が狭く、背の低い植物に道が隠されている箇所もあったので、頻回に道筋の確認を要した。場所によっては樹木がさほど密でなかったため、霧が明けてからは遠景を眺めつつ歩くことができた。燕山を越え長い下りを経て、雁坂峠を出てから約 2 時間で雁峠へと辿りつき、休憩をとった。雁峠の山小屋は廃屋になっており、緊急時以外は使用不可とのことだった。



荒川、多摩川、富士川 3 流の分水嶺を拝み、笠取山へと舵を切った。雁峠から見る笠取山は圧巻で、急坂が一直線に伸びているため登るのは一苦労かと思いきや、ゴールが見えている上ザックを雁峠に置いてきたため 30 分ほどで気楽に登頂できた。展望地からの眺めは素晴らしいの一言で、自身の踏破した山々を遠くに見つめるのは感慨深いものがあった。山頂にはシャクナゲが群生しており、花を咲かせつつある様子だった。下りは多摩川の源頭である水干を經由して雁峠へと引き返した。



軽食の後、10 時前に雁峠を出発し新地平へ向かった。雁峠を出て 15 分程すると下山道に沢が並走しはじめた。以降何度も沢を渡り返すため、渡るポイントとなる赤テープを見逃さないよう注意しながら歩く必要があった。10 時半を過ぎた頃から道が広がり、広川沿いに林道の





緑を楽しみながら緩やかな下りを進み、
11 時 20 分、最後は駆け足になりつつバス
到着 5 分前に新地平バス停に到着した。

今回が自身初めてのテント泊であり、重装備を担いで登りきれるか少々不安に思っていたが、無事予定を完遂でき、かつテント泊ならではの山行を楽しむことができたように思う。